

● 6月17日(水) 曇 室蘭岳(鷲別岳)(911m)

○ 朝4時半に目が覚め5時に起きたが外はどんよりと暗くて寒い。またベッドに潜り込んで6時半までぼんやりとしていた。周りには車がいっぱいだ。天気が悪いのでだれも動こうとしないのか。



早朝の駐車場。

天気が悪く、車がいっぱい。

ゆっくり朝食をとったが、天気は悪いし気温が低くて寒い。今日は室蘭岳へ登る予定だが、さあどうしようか? と思案した。じっとしていても仕方が無いのでとにかく登山口のだんばらスキー場まで行くことにして、8時前に道の駅を出発した。

・だんばらスキー場に着いたが霧雨が降っているし、山は雲の中に隠れて全く見えない。駐車場に車を止めて日記を書いたりテレビを見たりして待機していたらだんだん明るくなってきた。天気予報では曇だが降水確率はゼロとなっている。よし、登山決行だ!



だんばらスキー場の駐車場



めざす室蘭岳は雲の中

登山の準備をしていたら、車が何台か駐車場に入ってくる。なにかと思って見ていたら、みんな山の方へ歩いて行ったので室蘭岳に登りに来ているらしい。

・9時に出発。グレンデ脇に林道があり「登山道入口」と書いてある。その林道を10分ほど歩くと白鳥ヒュッテに着いた。



・ここで道は左右に分かれ、山頂を回って一周している。入山帳に記入してから私は左の「西尾根コース」に入った。入山帳を見ると、天気の良い平日の今日なのにもう20人近くが入っている。私が記入中にも一人やってきた。私が今まで登ってきた北海道の山としては異常に登山者が多い山だ。室蘭の町に近くて車ですぐ来られるし、この辺りにはこの山しか無いし、そんなに高山ではないのに花が豊富だし、おまけにヒグマがいないので安心だし、室蘭の人に愛されている山なんだなと思った。



入山届に記載する

・西尾根コースの歩き始めは、林の中の沢に沿った静かな道で花の多いすばらしいコースだ。入ってすぐズダヤクシュが迎えてくれた。懐かしい花だ！



静かな沢沿いの登山道



ズダヤクシュ

さらに道の両側にはコケイランみたいなランの花がいろいろ咲いている。北海道に来たのだなと実感する。



コケイラン



なに？ラン

周り是一片の霧でまさに五里霧中、視界ゼロで全く見えない。ただ明るいので雨の心配はなさそうだ。

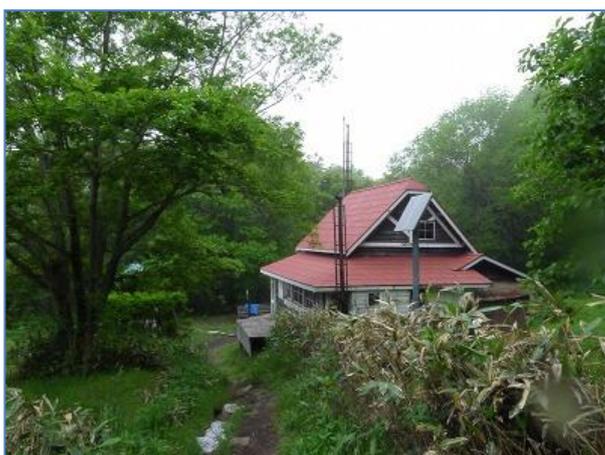
・スミレが咲いている。ツバメオモト、シラネアオイ、エンレイソウはもう花は終わっていて咲いていないが道端にいっぱい生えている。ハクサンチドリが延々と続き、時々ミヤマオダマキの鮮やかな紫色が目飛び込んでくる。さらにタニウツギ、ギンラン、シロバナハクサンチドリ、クルマバソウ、ツクバネソウ、エソカラマツなどなど、なんと花が豊富な山なのだろう。夢中で写真を撮りながら登ったので、山頂までコースタイムでは1.5時間のところを2.5時間もかかってしまった。



ギンランまであった！

・山頂近くでは、下ってきたおじさんが「下に湘南ナンバーの車があったが、おたくのか?」「はい、私のです」。私の後から登ってきたおじさんも一緒になり 3 人で、湘南だ、富士山だ、山梨だ、田貫湖だと話が盛り上がり、10 分以上も立ち話に花が咲いた。

・山頂は私一人。相変わらず霧の中で視界はゼロ。食事をしていると若いおじさんがやってきて「しょっちゅうトレーニングで登っている。今日は 40 分で登ってきた」という。そのおじさんに山頂の記念写真を撮ってもらい、山頂から真南に下る南尾根コースを下山した。このコースは林間の尾根道で花も少なく被写体もないのでどんどん下り、コースタイム通りの 50 分で分岐の白鳥ヒュッテについた。



・駐車場で靴を脱いでいると、山頂で写真を撮ってもらった若いおじさんがやってきて「室蘭に来たなら、ぜひB級グルメの焼き鳥を食って行け。一休という店が良い」と電話番号まで書いてくれた。「ぜひ食って行け」「でも飲み屋だろう?車だから飲めないよ」「一休はお土産を作ってくれるから、電話してから行ってみろ」と云って車で下って行った。親切というか押しつけというか。私はあまりその焼き鳥に興味を覚えないので一休へは行かずまっすぐ道の駅へ帰った。

・今日は天気が悪いのに蒸し暑く大汗をかいたのでまず風呂へ。道の駅の隣の温泉「ゆらら」へ直行した。600 円とちょっと高いが、中は広くて綺麗でなかなか良い温泉だ。のんびりと汗を流して疲れを癒した。道の駅に戻って洗濯に取り掛かる。今日汗だらけになったシャツとパンツと靴下などを水道で洗濯した。外は相変わらず天気が悪く気温が低いので洗濯物は干せない。車内につるしてヒーターを焚いてパソコンでメールを開始。伊達市で購入した予備バッテリーが威力を発揮した。明日は自然公園指導員連絡会の役員会なので「役員会よろしく」と送信。夕暮れになり外は風が出て一層寒くなったので、車内で夕食。寒くてビールなど飲む気にもならない。とにかくベッドに潜り込んで寝ることにした。